

# 研究紀要

## 家庭部会

## 実践発表

## 「ウェルビーイングの向上を目指した授業作り」

## 「定時制における多様な生徒に対応する家庭科の授業実践」

青森県立北斗高等学校 教諭 木下和子…3

講評 1

## 分 科 会

## 1 講義・演習 「被服製作技術検定3級（旧4級）を家庭基礎で活用する方法」 ～評価・その他、被服の疑問にお答えします～

## 2 講義・演習 「保育技術検定3級（旧4級）を家庭基礎で活用する方法」

講評 2

部会の動き ..... 11

研究テーマ ..... 12

紀要編集委員 清水端 由香 (青森県立百石高等学校)

# 家庭部会

## 実践発表 1

### 「ウェルビーイングの向上を目指した授業作り」

青森県立青森南高等学校 教諭 岩崎 久美

#### 1 はじめに

本校は令和 6 年度に 50 周年を迎える、また同年度からグローバル探究科が新設され、普通科とグローバル探究科と今年度で最後の卒業生を輩出する外国語科がある。また、昨年度、国際バカロレア DP 認定校となり、現在、第 1 期生の IBDP カリキュラムが始動したところである。

卒業後の進路は進学が大半を占め、昨年度は海外の大学へ進学した生徒もいる。グローバル教育と探究学習を推進し、思いやりや多様性を尊ぶ態度を育み、広く国際的な視野に立って社会の発展に貢献できる人材の育成を教育目標としている。

#### 2 テーマ設定の理由

高校 1 年生が家庭基礎を履修する段階では、「未来の自分」や「未来の生活」を具体的に想像することが難しく、単元によっては知識の習得に偏りがちである。こうした状況の中で、生徒の興味・関心を高め、主体的な学びへつなげるための授業づくりに試行錯誤を重ねてきた。そのような取り組みの中で、卒業を間近に控えた生徒から「家庭科をもう一度学びたい」という声が多く聞かれるようになった。卒業後に始まる新生活は、自らの選択によって生活スタイルを決定する場面が増え、人生の中でも特に大きな転機となる。こうした声は、期待と不安が入り混じった心情の表れであり、同時に家庭科が人生の節目において必要とされる教科であることに気付いた瞬間でもある。学びが生活の中で活かされることを実感できたことは、喜ばしいことでもある。

しかしながら、生徒がその価値に早く気付くために、どのようなアプローチが有効であるか模索していた。

近年、社会は急速に変化しており、生活スタイルの多様化や簡素化が進む中で、個人が自分らしい生き方を選択する力がますます重要となっている。こうした背景を踏まえ、本研究では「ウェルビーイングの向上」、すなはち「自分が最も良い状態で生活する力」を育むことをテーマとして設定した。これは、個人の生活の質の向上のみならず、社会全体の質の向上にもつながると考えられる。

家庭科教育を通じて、生徒が自らの生活を主体的に捉え、より良い未来を構築する力を育むことを目指し今回のテーマとした。

#### 3 実践内容

##### (1) 生涯の生活設計

本授業は、高校 1 年生が「自己と他者、社会とのかかわりから様々な生き方を理解し、多様な考え方がある中で主体的にライフスタイルをつくっていくための力をつける」ことを単元目標として設定している。特に、入学間もない 4 月に実施することから、生徒同士の交流を促進し、学習への関心を高めることを目的に、グループワーク形式で展開している。

授業では、人生のライフステージにおける様々な出来事に対して、2 つの選択肢を提示し、生徒がそのうちの一つを選び、選択理由をグループ内で共有しながらステージを進めていく構成とした。例えば「青年期」では、仕事選び、ひとり暮らしの部屋選び、結婚などの場面を設定し、生徒が想像しやすい具体的な状況を提示している。仕事が充実してきた頃に「結婚を意識する人との出会いが訪れる」という場面では、「ふたりの住まいをどうするか」、「家事の分担をどうするか」といった問い合わせを設定し、「家事はふたりで分担する」あるいは「経済的負担はあるが自由時間を確保するため外部化する」といった選択肢を提示した。生徒はこれらの選択肢をもとに、自分なりのライフスタイルを予想し、考えを交えながらグループで意見交換し、他者の考えと比較しながら進めていきます。

将来を具体的に想像することが難しい生徒であっても、教材の中の人生の選択を通して多様な考え方に対することで、人生における様々な出来事を想像し、選択肢の多様性を認識することができる。その結果、なぜ知識や技術が必要なのかを理解し、学習に対して主体的な姿勢を育むことが可能になるとを考えている。

##### (2) 高齢期の生活と福祉

単元目標は、高齢者の尊厳と自立生活の支援、ならびに生活支援に関する基礎的な技能の習得を目指す。ま

た、高齢者の自立生活を支えるために、家族・地域・社会の一員として果たす役割の重要性について課題を設定し、解決策を構想する力を育成するとした。

中学校の段階で高齢者疑似体験を経験している生徒が多いため、本授業では高齢者の「心の変化」に焦点を当てた体験活動を実践した。具体的には、高齢性難聴を模擬体験できるイヤーマフを使用し、孤立感や体験する場面を設定した。高齢者役の生徒には会話の内容を事前に知らせず、他の生徒が会話を進める中に入らうこと、聞き取りづらさや疎外感、聞き返すことへの申し訳なさなどを実感させた。その後の振り返りでは、聞き取りやすい言葉の選び方、声のトーン、話す位置、しぐさなどの工夫について考察し、実習を通じてコミュニケーションの在り方を学んだ。

加齢性難聴は早期に気づくことも、気づかれることも少ない。そのため、次第にコミュニケーション力の低下を招き、認知症の発症リスクを高める可能性があることについても学習し、さらに、超高齢社会における単身世帯の増加という社会的課題に着目し、解決策の考察を行った。認知症の正しい理解が早期発見につながること、健康寿命の延伸が社会全体の福祉向上に寄与することを理解できたと感じた。日常的に自分たちができる実践していくことが社会を支える一員の役割であるという意識、そして自身のライフステージの過ごし方について意識を高めてくれたと感じている。

### (3) 食生活と健康

本単元では、自己や家族の食生活を計画・管理する力を育成することを目標とし、栄養や食品の調理特性、衛生管理に関する知識と技能を身に付けることを重視している。加えて、目的に応じた調理を行う力を養うとともに、食の安全や食文化の継承、健康・環境への配慮を踏まえた献立作成や食生活の工夫ができるよう指導を行っている。

食生活は、生徒自身が身近に感じやすい分野である一方で、誤った知識や安易な考えに基づいた食習慣が見受けられることもある。特に高校生は、卒業着に一人暮らしを始める生徒が多く、食生活の自立に向けた基礎的な知識と技術の習得が重要な時期であると考える。そこで実習内容は、基礎的な調理技術の習得とともに自炊に対する心理的ハードルを下げる目的とし、限られた設備でも効率的に調理できることを体験的に学ぶ機会として設けた。例えば、単身用アパートの台所を想定した調理環境では、用具や設備が最小限である。しかし、食品の購入や保存方法を理解することで、調理時間の短縮や効率的な調理も可能となる。こうした体験を通じて、生徒は食べることへの意欲や実践力を育むことができる。さらに、「何を選び、どう食べるか」という視点を日常生活に定着させ、健康的な生活の構築につなげたいと願っている。

また、食文化の指導においては、事前事後指導の中で文化的な背景や食事のマナーについても取り上げている。SDGsの活動の一環として「おにぎりアクション」への参加も継続しており、生徒が自らの食と世界とのつながりを実感する機会を提供している。おにぎりの写真を投稿することで企業から寄付が集まり、発展途上国の子どもたちに食料が届けられるという仕組みは、食品ロスや食料自給率の問題への関心を高める契機となっている。本単元では、実習時間の確保と学習内容との連携を重視し、調理実習が生徒の成功体験となるよう工夫している。すべての生徒がすぐに実践に結びつけられるとは限らないが、将来の健康につながる食事を自らが作り、口にしていくことを通じて、食の重要性を実感して欲しいと考えている。

## 4 まとめ

本実践を通じて、生徒が自らの生活を主体的に設計し、他者との関わりや社会的課題に目を向けながら、自分らしい生き方を模索する姿勢が育まれていると思う。特に、体験的な学びを通じて「自分の生活を自分でつくる」意識が芽生え、日常の選択が将来のウェルビーイング向上に深く関わっていることを理解する機会となつた。「生涯の生活設計」では、人生の選択肢を疑似体験することで、将来のライフスタイルを具体的にイメージし、価値観の違いを尊重しながら自分の考えを深めることができた。生徒同士の対話を通じて、他者理解と自己理解が進み、社会の中で自分らしく生きる力の基盤が育まれたと感じている。

「高齢期の生活と福祉」では、高齢者の心理的側面に焦点を当てた体験活動を通じて、共感力やコミュニケーションの工夫について深く考えることができた。高齢者の孤立感や聞き取りづらさを実感することで、福祉の課題を自分事として捉える姿勢が育まれ、社会の一員としての役割を意識するようになった。これは、他者とのつながりを大切にする心の豊かさ、すなわちウェルビーイングの向上に直結する学びであった。

「食生活と健康」では、調理実習を通じて自炊への抵抗感を軽減し、食に対する関心や実践力を高めることができた。SDGsの視点を取り入れた活動では、食と社会とのつながりを実感し、食品ロスや食料自給率といった課題への関心を高めることにもつながった。今後も、生徒一人ひとりが社会とのつながりを感じながら自分が最も良い状態で生活する力を育んでいけるよう支援していきたい。

## 実践発表 2

# 「定時制における多様な生徒に対応する家庭科の授業実践」

青森県立北斗高等学校 教諭 木下 和子

## 1 はじめに

青森県立北斗高等学校は昭和 7 年に青森立青森青年学校として開校し、昭和 31 年に青森市立北斗高等学校と改称。昭和 57 年に県立に移管し、青森県立北斗高等学校と改称。平成 18 年からは単位制による定時制の課程（午前部・午後部・夜間部の三部制）として、今年度で創立 93 年目を迎える伝統校である。中学校時の不登校経験や発達障害等の課題を抱え、特別な支援を要する生徒を対象とした指導・支援を体系的・組織的に進める「北斗スタンダード」を設定し、取り組んでいる。その一環として、「わかる授業」づくりについては、ユニバーサルデザインの視点に立ち、指導をおこなっている。

家庭科の科目としては入学して 2 年目に「家庭基礎」（2 単位）を履修、「保育基礎」（4 単位）、「フードデザイン」（4 単位）を 3 年目と 4 年目に選択履修することができる。

## 2 テーマ設定の理由

これまで臨時講師だった時を含めて、比較的専門科目を担当することが多く、「授業のやりかた」よりも授業の内容（例えば被服製作を期限までに終わらせるなど）に重きを置く場合が多く、授業の進め方そのものをじっくりと顧みることは少なかったように思う。また、本校・定時制の生徒は、「特別な支援を要する生徒」が多く、その生徒たちにも「わかる」授業を行うためには、これまでの授業のやり方を見直す必要があるのではないかと感じ、進めていくことにした。

## 3 実践内容

### （1）ユニバーサルデザインの視点に立って

本校は令和 3 年 3 月に「わかる」授業づくり北斗高校版マニュアルと、「わかる」授業づくり実践事例集という冊子を作成しており、その内容に従って改善を試みた。そのなかでポイントとして挙げられているのが【1】授業時間の構造化、【2】板書の改善、【3】明確な指示、【4】プリント作成への配慮、【5】ICT の活用について、の 5 つである。今となっては当たり前のこと過ぎて、特性のある生徒に向けてという内容ではないが、私自身は徹底できてなかったため、改めて取り組むこととした。

### （2）体験・実習を多く取り入れる

本校の生徒は不登校経験のある生徒や特性を持つ生徒が多数在籍し、また社会経験も極端に少ないとから、幅広い経験をさせたいと考え、多くの体験・実習を取り入れることとした。

#### ・製作実習（保育基礎）

折り紙による平面構成やフェルトボール、さいころパズルの製作を行っている。不登校の経験からか、いわゆる座学を受けるのは苦手な生徒も多いが、作業の時間は比較的取り組みやすいのか一生懸命作業している。ただ、生活経験の少なさや発達障害などの特性から、はさみ等の道具をうまく使えない生徒も一定数おり、そのような生徒には個別の見守りや指導が必要である。

#### ・子育て支援マップの作製（保育基礎）

生徒の自宅を中心とした子育て支援マップの作製を行った。事前の指導が行き届かず、保育園や幼稚園以外の子育て支援施設について言及する生徒は少なく、少し偏ったマップになってしまった。

#### ・「模擬きゅうり切り検定」（フードデザイン）

フードデザインの授業ではあったが、時間を計測しての「模擬きゅうり切り検定」に挑戦した。小学校、中学校と不登校、また授業に参加できていないため、本校 2 年目の家庭基礎で初めての調理実習を経験したという生徒も多く、包丁の使い方も危ういものであった。事前にスライドや動画を使って包丁の握り方、食品の押さえ方、刃の使う位置などを確認させ、段ボールで作った包丁を実際に握らせて練習を行った。当日は緊張感をもつて実習に取り組み、なんとか無事にきゅうりを切ることができたが、包丁のそばに手を置くのが怖いのか、食品を押さえるのをためらう生徒もあり、粘り強い指導が必要だった。

#### ・東奥保育・福祉専門学院との連携事業（保育基礎）

学校近くの同学院との連携事業の一環として、学院の先生と学生さんに来ていただき、授業をしていただいた。「保育基礎」の時間に学生さんたちが導入を兼ねて手遊びを、その後先生が鬼のお面を作る授業を行った。人とのコミュニケーションがそれほど得意でない生徒が多いため、心配しながら見守った。初めのうちは表情も硬く、どう反応したらよいか戸惑っている様子だったが、徐々にはぐれていき、学生さんたちの手助けを借りながら鬼のお面を作ることができた。事後のアンケートでは概ね「楽しかった」、「よい機会だった」と答える生徒が多くコミュニケーションが苦手だからできないだろうというこちらの思い込みを打ち消すものだった。本来であれば保育園や幼稚園に出向き、保育実習をするのが望ましいとは思うが、定時制（三部制）やその他の条件を考えると実現は難しいと感じていたなか、とても貴重な体験をさせることができた。ただ、来ていただけたのは午前部、午後部の授業だけで、夜間部の授業は時間的に難しく、同じ科目内でも部により差が出てしまう結果となつた。

### （3）外国籍の生徒への対応

現在、夜間部2年目に外国籍（ネパール出身）の生徒がいる。本校では現在4年目の生徒にも同じくネパールからの生徒が在籍しており、学校としての対応は初めてではないが、私自身は初めてだったので少し紹介させていただく。

#### ①日本語科目（学校設定科目）の開設

教育課程に「日本語」の科目を盛り込んでおり、日本語を学習しながら他の科目を学んでいる形となる。日常会話にはあまり困らないが、難しい単語はわからない場合が多く、簡易な言葉への言い換えをしている。

#### ②使用するワークシートにルビを振る

日本語に関して、ひらがなは一応問題なく読めているので、使用しているワークシートの漢字部分にルビをふったものを配付している。ルビを自動的に振ることができマクロをワードに追加することで、漢字の単語を一つずつ選びルビのボタンを押すのではなく、ある程度まとまった量の文章を、または文章すべてを選んで2ステップほどでルビがつくので大変ありがたく使用している。

#### ③日本語支援員の配置

全体では週に6時間、家庭基礎には2時間のうち1時間配置していただいている。授業では教員の説明や板書（スライド）の内容をかみ砕いて説明したり、彼女が話したい、書きたい内容を日本語に直したり、先に書いて写させたりしている。考查時は別室で、補助説明を受けながら受験している

#### ④ポケトーク（通訳アプリ）の導入

他には「ポケトーク」という通訳アプリが彼女iPadにインストールされている。教員が話す内容が日本語で、さらにはネパール語に翻訳されて表示されるので、彼女は私の話を聞き、授業スライドを見て、更にはタブレットでポケトークが通訳する内容を読み…と忙しく授業を受けている。

#### ⑤難しく感じる生活、文化の違い

授業をしていて、難しさを感じているところとしてはやはり生活、文化の違いである。家庭科の授業内容（例：「世帯」の概念や古い生活風景）が、文化や育った環境が異なる外国籍生徒には理解が難しい場合があるため、家庭科という教科の内容が日本の文化や歴史に深く根ざしていることに改めて気づかされた。

## 4 まとめ

### ・これからの課題

コミュニケーション能力の育成：ペアワークやグループワークなどの、生徒同士のコミュニケーションを促す活動の導入が今後の課題である。人と関わること、自分の意見を表明することに強い苦手意識を抱く生徒たちが多いが、学校に来ることができていてうれしいという段階から、もう一段ステップアップできるよう粘り強く支援をしていきたい。

多文化共生教育の深化：外国籍生徒が増える中で、文化や背景の違いを考慮した授業の組み立てと理解促進が重要となる。特に、文化的な背景が強い教科内容の伝え方にはさらなる工夫が求められており、その工夫がひいては、多様な生徒へのわかりやすい授業（ユニバーサルデザイン授業）となっていくのだと感じている。

・私自身のことを言えば、これまで専門科目を担当することが多く、「家庭基礎」は8年ぶりに担当することになった。幸い1クラスの人数は少なく、多くの生徒に細かく目が届きやすい状況である。小・中学校で不登校だったが、高校に入ってからは休まず登校できているという生徒が多い。特性のある生徒に最大限の配慮をしながら、生徒が主体的に学び、表現できるような授業形態の模索を続け、今後も指導を続けていきたい。

## 講評1

柴田学園大学附属柴田学園高等学校 校長 荒城英子

私は、講評ではなく、感想を述べたいと思う。

まず、青森南高校の岩崎先生のウェルビーイング。「人生楽しく目的を持って生きていきたい」ということで、「家庭基礎」の中で、生徒に岩崎先生が見つけた着眼点でゲーム感覚ながら、各々目標を設定し、生徒に考えさせ、知識を深めさせ、評価もきちんと忘れず行うという授業は、素晴らしいと感じた。

ただ、感じたこととして、例えば「おにぎり」について、今、古米、古古米である備蓄米をどうしたら美味しく食べられるかということが取り上げられている。私が勤務している系列の大学にも問い合わせがあった。大学ではお酒を入れている。お酒を入れると意外と普通米と遜色がないということで、実際に食べた方々もいらっしゃる。例えば、授業でおにぎりを取り上げるなら、生徒たちにも受けがいいし、コンビニでもよく売れているということで、お米について、もうすこし掘り下げて生徒たちに話してもよかったのではないかと思う。おにぎりは本当に、便利で私たちの生活の中に根付いている。

家庭科の授業で何をやるにしても、基礎基本が大事だと思っている。掘り下げて考えていくためには、基礎基本が身についていないと、生徒は「あ、あれはゲームでやったんだ」とスルーしてしまうのでそういうところの指導も忘れずお願ひしたい。

次に、木下先生には共感した。実は、私は北斗の通信制に4年間勤めた経験がある。先生は定時制の3部制に在職なさっている。授業のユニバーサルデザインは、今となっては当たり前で、「やらないっておかしくないの?」と思うくらいである。私が北斗高校に着任した時には、「畑」という字は、火に田を書くが、田を書いてから火を書く生徒もいた。「な」や「ね」が全く書けない生徒もいた。不登校30日以上はざらで、全休している生徒から、何かしら障害のあるの生徒まで在籍していた。その中で、本当に、色々ご苦労なさっていることと思う。「配慮、配慮」と言われて、「配慮ってどこまで配慮すればいいの?」という先生の戸惑いもよくわかる。

その中で木下先生のところで、面白いなと思ったのは、作業で、保育関係のサイコロを作らせたり、それから、「いないいないばあ」や「子育て支援マーク」を先生なりの工夫で作らせたりすること。

また、フードデザインの段ボールで作った包丁の工夫が面白いと思った。

自分の経験だが、孫に小さい頃から包丁持たせたところ、両親が「危ない、怪我をする、何てことさせるんだ」と言わされたが、孫はきちんと使う。色々なことを経験することにより、実際の生活の中で実践していくような対応は大事だと思っている。

定時制3部制で問題というか、ご苦労だなと思ったのが、午前部、中間部、夜間部とあり、外部との連携は時間帯への対応が難しい。そうであればボランティアの募集はできないのだろうか。様々な手法や対応を考えて、同じような環境を整えてあげられたらということを思った。

最後に、私は柴田学園高校に勤めているが、そこに勤める前に、とある専門学校で、教育相談やっていた。今もまだ続いているが、そこでも外国籍のネパールから来ている生徒がいる。

ただ、そのネパールから来た生徒は、向学心が強く、日本語を勉強しようとしている。専門学校は、高度な知識を、非常に必要とする学校なので、日本語が分からないとどうにもならないで自己研鑽というか自分で努力していた。「ネパールからよくおいでになったね」と言うと、「ネパールでは生活できないのです」と。だから日本に来て、外貨を稼いで本国に送るという形になっているとのことだった。

面談を通して一番面白かったのは、「日本にいると、先生、この頃青森県では熊が出るよね」と。「そうだね、怖いよね」と話をしたら、「ネパールではね、豹が出るよ」と。「え!!豹?」。だからもう豹と出くわした時には、「もう私もダメかなと思ったよ。」という会話をして、国が違うとはこういうことなんだなと思った。

「じゃあ、頑張って、学校卒業して、就職してね」という話をしたら、もうちゃんと就職先が決まったという。木下先生の外国籍の生徒について、ネパールという共通項があったので付け加えます。

では、先生方、午前中本当にご苦労様でした。以上で、感想を終わります。

## 分科会1

### 「被服製作技術検定3級（旧4級）を家庭基礎で活用する方法」

#### ～評価・その他、被服の疑問にお答えします～

青森県立柏木農業高等学校 教諭 山内 最子

#### 1 はじめに

みなさんは家庭基礎の目標をどうとらえていますか？学習指導要領の「家庭」の目標では「見方・考え方を働かせ～主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す」とある。文部科学省の田邊暁子教育課程調査官は、技術検定の生徒への効果的な指導として『なぜそうするのか』の原理・原則を指導することは、今後応用できる知識や技能の定着につながる」と話されていた。そこで、私の考える技術検定を家庭基礎で実施するメリットは、「評価がはっきりしている」とことと「自分のやることがはっきりわかる」とことだと考えている。これは「主観ではなく客観的な評価を生徒に説明できること」と「自分のやる事を理解し、自分の責任で覚える必要がある」ことを理由としている。

#### その他 指導上、気をつけてのこと

#### 2 実技講習の内容

被服製作技術検定3級の内容（三つ折り・半返し縫い・並縫い・まつり縫い・ボタンつけ）のポイントと上手に縫うコツを説明しながら実習を行った。

(1) 三つ折り・・・布の両端を三つ折りにして、まち針でとめる。アイロンがなくても綿の布なので、親指の腹を使ってしっかりと折ることができる。

この時、布の織り構造がヨレるので、爪は使わない。

(2) 半返し縫い・・・ほぼ全員の生徒が本返し縫いを小・中学校で経験しているため、高校では「半返し縫いを覚えよう」と取り組ませている。

△印に合わせ二つ折りにし、指示された位置を表目0.2cm、裏目が0.6cmで半返し縫いをする。玉どめは裏側にする。

(3) 並縫い・・・ほぼ全員の生徒が小・中学校で経験しているので、高校では「運針を覚えよう」と縫う時に布を動かす練習にチャレンジさせている。

並縫いは、折り山より0.2cm内側を0.4cm程度の針目で縫う。

(4) まつり縫い・・・半数の生徒が小・中学校で経験している。「ズボン、スカートの裾上げを覚えよう」と技術を応用できるように伝えている。針目の間隔は0.7cm程度、表目は0.1cm程度でまつる。

(5) ボタンつけ・・・ほぼ全員が小・中学校で、糸足に針を刺して終わるボタンつけを経験している。そこで「高校ではプロの技術を覚えよう」と裏面に玉止めがでない方法を指導している。（裏面に玉どめがあると着用時にチクチクしたり、こすれて玉どめが取れたりするため）ボタンつけは表から針を刺し、3回ボタンに糸をかけ、糸足を作る。糸足に糸を3回巻きつける際、3回目の糸をくぐらせる（下から上へ）と「巻きが固定」される。さらに一度布に針を刺して表に針を出し、糸足のわきに玉どめをする。

(6) 仕上げ・・・検定試験は以上の作業を25分で行う。検定後は、しるし通りに折って両脇を並縫いして、ひっくり返すとポケットティッシュ入れになる。両脇はミシンで縫わせても良い。しるし通りに布を折ることが分かりにくい生徒には、型紙を折って確認させてもよい。

#### 3 評価について

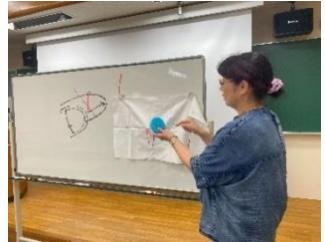
技術検定の採点表を参考にして、観点・採点ドリル（作品例）を使って各自で採点をしてから、答え合わせと評価の解説を行った。

評価の基準は5点満点で、よい（5点）・今一歩のできばえ（3点）・著しく悪い（0点）となる。縫い目縫い位置、玉どめ、三つ折りなど全体が評価の対象になる。

#### 4 まとめ

被服製作技術検定3級は「生徒が各自の机で前を向いて作れるもの」という目的で考案した内容になっている。家庭基礎では「被服の修繕」など2～3時間で扱える内容であり、学習指導要領ではB（2）衣生活と健康に関する分野P36「～保有する被服の有効な活用や修繕、生活者として自立する上で必要な技能を身に付けることができるようとする」というところに該当する。生徒が「見方・考え方」をしっかりとしたものにし、評価に客観性があることから、技術検定3級の内容を教材としておすすめしたいと思っている。

- 1. 所々上手 →いい所を褒め「うまくいっている部分のように縫ってみよう」と言う
- 2. 全くダメ →縫きを見極め、頭かないポイントのみを伝える  
×「何やってんの！」  
○「お～そうきたか」と思うようにする
- 3. コツを丁寧に「LIVE」で見せる
- 4. おねエ言葉で注意
- 5. ブラドの高い生徒には動画視聴が有効



## 分科会2

### 「保育技術検定3級（旧4級）を家庭基礎で活用する方法」

八戸学院光星高等学校 教諭 野坂 華子

#### 1 はじめに

青森県の保育技術検定専門委員である野坂華子教諭より保育技術検定についての説明があった。検定内容をDVD視聴し、家庭科教員が実際に体験することで、家庭基礎に検定内容を取り入れられることができるのではないかと説明があった。保育技術検定には4種目あり、【音楽・リズム表現技術】【造形表現技術】

【言語表現技術】【家庭看護技術】である。3級（旧4級）に分科会参加者教員がすべてにチャレンジするという形式で実施した。指導上の留意点は、すべての実技共通で「受験態度（服装・髪型・爪・姿勢・態度）も指導するとされており、その他は受験項目によって異なる。

#### 2 演習の内容

【音楽・リズム表現技術】のねらいは《拍子をとりながら簡単な童謡をうたうことにより、歌唱の基本的な表現技術を測る》とされており、評価方法は次のとおりである。

（1）拍子が正確に打てている（2）姿勢、発声が良い（3）リズムが正確でブレスがある（4）発声がよく、正しくうたえる（5）相手にうたいかけている、となっており、失格事項は・送付された実技問題の楽譜以外で演奏した場合・拍子を打たずにうたった場合となる。また、恥ずかしがらずに大きな声で歌って欲しいとアドバイスを頂き、「チューリップ」を参加者全員で歌唱した。

【造形表現技術】のねらいは《日本の伝統文化として親しまれ、広く普及している「折り紙」を幼児とのコミュニケーション手段として活用できる基礎的表現技術を測る》とされており、評価方法は次のとおりである。

（1）規定課題・折り図どおりに折れている。・折り図どおりに、角や折れ線がきれいにおれている。・全体のできばえがよい。（2）自由課題・各分類より1個ずつ折れている。・角や折れ線がきれいで正確である。・全体の配色を考えて丁寧にできている。（3）全体、となっており、失格事項は・市販の単色無地の折り紙（15cm大）を使用していない。・規定課題の作品がない、また規定課題の合計が0点の場合となる。規定課題の分類は、魚・鳥・動物（昆虫を含む）・植物・その他とされている。参加者は規定課題に挑戦し、その後模擬審査した。

【言語表現技術】のねらいは《童話や物語の短い文章を、正しく読んだり表現したりすることにより、幼児の発達段階にふさわしい言語表現の基本的技術が身に付いたかを測る》とされており、評価方法は次のとおりである。

（1）読み方・明瞭な発音で読んでいる。・句読点、段落を適切にとらえて読んでいる。・お話の内容や発達段階にふさわしい速さで読んでいる。・お話の内容にふさわしい声で読んでいる。・読み誤りがない。などであり、二人一組で審査員役と受験者役で実施した。

【家庭看護技術】のねらいは《だっこ、授乳、検温など、乳児の発達段階に応じた日常の世話に関する基本的技術が身に付いたかを測る》とされており、評価方法は次のとおりである。

（1）世話の仕方①抱き上げ方や寝かせ方を月齢に合わせている②用具や器具の扱い方。（2）言葉がけ①問題の要点をとらえている②適切な言葉がけ。（3）受験中の態度①手順、手際がよい②頭髪、爪、服装。などであり、手際よく自分の子育て経験を思い出しながら実践している教員もいた。

#### 3まとめ

アンケート結果では、「保育検定の内容は家庭基礎・家庭総合の実習にも活用できるので、保育技術検定の評価基準を参考に学習の評価を作成することで、授業時間の短縮にもつなげられると思う」「保育技術検定は留意点も明確なので、すぐに授業の演習に活かせそう」などの感想があげられ、とても有意義な分科会であった。



分科会2開始の様子



折り紙の説明



折り紙に挑戦



保育人形使用衣服の着脱

## 講評

青森県総合学校教育センター 指導主事 小野 育恵

みなさま、今日1日大変お疲れさまでした。他校の先生方と交流し、明日から頑張る力を得ることはできましたでしょうか。

それでは、今日1日について少し振り返ってみたいと思います。

まず初めに、午前中に行われました実践発表についてです。今年度からテーマを一新し、「問題解決的な学習を意識した指導と評価の計画の作成と実践」となりました。

## 実践発表について

## テーマ

## 「問題解決的な学習を意識した指導と評価の計画の作成と実践」



私が提案したもので、これから予測困難な時代に立ち向かうために求められている資質・能力を身に付けさせるために、我々に必要なこととして設定しました。

問題解決的な学習を意識したというところでは、学習指導要領の解説等を見ると、学習過程の参考例ということで、家庭科の学習の流れとして、問題を見出して課題を設定し、それを解決するために身に付けた知識や技能を活用して、どうすれば解決できるかを考えもらい、実践し、振り返るという流れを繰り返していきます。予測困難な時代の中で、子供たちが様々な変化に積極的に向き合って課題を解決していくことができるよう力を身に付けていくことが求められていますので、我々は家庭科の中でも、問題解決的な流れを作っていく、子どもたちに様々考えさせていくことがとても大事になってきていると感じます。

もう一つ、「指導と評価の計画の作成」についてです。これは指導と評価の一体化の参考資料に載せられている授業計画ですが、これ程細かく計画を立てたことはありますか？日々の多忙な業務の中で実践するのは現実的に難しいと感じている先生方は多いのではないでしょうか。しかし、我々が授業をするためには、目標を立て、それを身につけさせるためにはどうしていけばいいのか、仕掛けを含めていろいろなことを考えていかなければなりません。それをどうやって評価していくのか、例えばテストだけで評価すればいいかというとそうではないです。そのため、バランス良く評価をするためにはどうするのかというところは計画も必要です。計画を立てて終わりではなくて、それを振り返って、今回の授業のやり方で、どれぐらい生徒たちに身についたのだろうか？身についてないとすると、どこがだめだったのだろうか。次こうしなきやいけないかな。そういったところが我々には必要だと思います。単元というひとまとめの中で、いかにバランス良くその力を身につけさせて評価をしていくか、それを振り返って次につなげていくか、そこがとても大事になっていますので、ぜひこの単元指導評価計画を立てていただきたいと思います。ここまで細かくなくていいと思います。先生方ができる範囲で計画を立てられるようになっていただきたいという思いで、今回のテーマにさせていただきました。

ここからのスライドは、今年度の指導主事会で田邊調査官が資料として提供してくださったものを使用しています。

学習指導要領の全体構造について、上から見ていきます。何ができるようになるかというところです。

学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を3つの柱に整理しています。

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」

何を学ぶかという観点から、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科、科目等の新設や、資質・能力の3つの柱に即して各教科等の目標や内容を構造化しています。

そしてどのように学ぶかという観点から、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をしっかりとやっていきましょう、ということが示されています。

1 (1) 学習指導要領の全体構造 令和3年度普通科・教科別指導基準・指導基準・研究協議会による教科別検討会の資料

The diagram shows the overall structure of the Learning Guidance Manual (1). It is a hierarchical tree structure with the following levels:

- Top level: 学習指導要領の全体構造 (Learning Guidance Manual's overall structure)
- Second level: 令和3年度普通科・教科別指導基準・指導基準・研究協議会による教科別検討会の資料 (Information from the Ministry of Education's 'Research and Study Conference on Learning Guidance Manuals for Each Subject' for the 2021 fiscal year)
- Third level: ①「新しい時代に必要な資質・能力の育成」と「学習評価の充実」 (Promotion of 'new era' qualities and abilities, and improvement of learning evaluation)
  - Fourth level: ①「生きる力・創造力・探求力」 (Life skills, creative thinking, and inquiry)
    - Fifth level: ①「生きる力・創造力・探求力」 (Life skills, creative thinking, and inquiry)
  - Fourth level: ②「新しい時代に必要な資質・能力の育成」 (Promotion of 'new era' qualities and abilities)
    - Fifth level: ②「新しい時代に必要な資質・能力の育成」 (Promotion of 'new era' qualities and abilities)
- Second level: ②「何ができるようになるか」 (What becomes possible)
  - Third level: ②「何ができるようになるか」 (What becomes possible)
    - Fourth level: ②「生きる力・創造力・探求力」 (Life skills, creative thinking, and inquiry)
      - Fifth level: ②「生きる力・創造力・探求力」 (Life skills, creative thinking, and inquiry)

1 (3) 指導計画作成上の配慮事項

第1回 館野 第3章 1(1)

The diagram shows the 'Considerations for the Preparation of the Guidance Plan (1)' (1(1)). It is a hierarchical tree structure with the following levels:

- Top level: 指導計画作成上の配慮事項 (Considerations for the preparation of the guidance plan)
- Second level: 第1回 館野 第3章 1(1) (First meeting, Kubono, Chapter 3, 1(1))
- Third level: 第1款の3(1)から3(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとめを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。
  - Fourth level: 特に、各教科・科目等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方(以下「見方・考え方」という)が銀録されていくことに留意し、生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考え方を形成したり、問題を見直して解決策を考えたり、思いや考え方を基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

家庭科の目標、内容を常に確認する

内容C (1) イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性

イ といふことは、「参考書、教材、教科書、参考書等、教科書等につながる内容

The diagram shows the 'Importance of Managing and Planning for a Lifetime (1)' (1(1)). It is a hierarchical tree structure with the following levels:

- Top level: 家庭科の目標、内容を常に確認する (Always confirm the goals and content of Home Economics)
- Second level: 内容C (1) イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性 (Importance of managing and planning for a lifetime (1))
- Third level: 各ライフステージの特徴と課題、家族構成や収入・支出の変化、生涯の賃金や働き方、社会保障制度などと関連付けながら考えることができるようになります。また、将来を見通して、事故や病気、失業、災害などの不可避的なリスクや、年金生活へのリスクに備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察できるようになります。
- Fourth level: 高等学校実習指導基準 (令和3年6月改訂) 対応 対象
- Fifth level: どんな授業をすればいいのだろう?

家庭科の目標、内容を常に確認する

内容C（1）イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性

指導に当たっては、例えば、給与明細を教材に、可処分所得や非消費支出など家計の構造や収支バランスについて教った上で、高校卒業後の進路や職業も含めた生活設計に基づいて、具体的にシミュレーションすることなどが考えられる。また、家計管理や生涯を見通した経済計画を考察する際に、例えば、ライフステージに応じた住生活や適切な住居の計画において、住宅ローンに関する費用と関連付けるなどの指導の工夫も考えられる。

授業のヒントが書いてある

キーワードを探してみると…

- ~ねらいとしている
- ~できるようにする
- その際、~考えられる
- 指導に当たっては~
- 例えば、~考えられる

「問題を見いだして、課題を設定する」学習過程を充実させる

課題の設定が大切  
だいたいことは  
何をやるか  
が決まれば…

どうやって問題  
を見いだして課  
題を設定するか  
がわからな  
いかな?

生活の課題発見	解決方法の検討・計画	課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善
既習の知識及び(持続)生活経験をもとに、問題を発見する。 問題を発見する方法を用いて、問題を発見する。 問題解決方法を設定する	生活に沿った知識と技術を活用して、問題解決の実践活動を計画する。 計画する方法を検討する	生活に沿った知識及び技術を活用して、問題解決の実践活動を計画する。 問題解決の実践活動を実践する。	結果を発表し、改善を行う
→		→	
→		→	

家庭・地域での実践

改善策を家庭・地域で実践する

2 (1) 学習評価の改善の基本的な考え方

○ 学習評価は、「生徒にどういった力が身についたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

○ 各教科・科目の学習評価においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行はず目標に準拠した評価」として実施。  
→きめ細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

**学習指導と学習評価のPDCAサイクル**

○ 学習評価を通して、学習指導の充実を見直すことや個々に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。

**指導と評価の一体化**

現行の学習指導要領では、「家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。」ことを目標のひとつとして挙げています。当センターの初任研や中堅後期研修などでも単元指導計画を作成し実践していただいておりますけれども、今まで、問題解決的な学習を意識して単元指導計画を作成する機会がなかった先生方も多いかと思います。子どもたちに必要な資質・能力を身に付けさせるために、『主体的・対話的で深い学び』の視点での授業改善を意識しながら、授業や評価の計画を立て、見通しをもって実践することはとても大切です。ぜひ、今からでもチャレンジしていただきたいと思います。

本日実践発表をしてくださった先生方も、単元の目標をたて、評価規準を設定し、実践的・体験的な活動を通して資質・能力を育成できるよう工夫されており、日々生徒の状況を踏まえた授業づくりをしっかりとされていると感じました。単元指導計画や実践してみてどうであったかの振り返りなど、もっと詳しくお聞きしたかったです。お忙しい中ではありますが、今後も目標を達成するために計画し、計画したことを実践・評価し、その結果を生徒の学習や教師による指導の改善に生かす。というPDCAサイクルを回していただきたいと思っています。

本日は時間も限られていますので、メーリングリストを活用して、「問題解決的な学習」についても資料をお送りできればと考えております。お時間のある時にご覧いただき、ご自身の授業改善に生かしていただければ幸いです。メーリングリストといえば、先日、講座のチラシを送らせていただきました。こちらの方も、授業づくりや評価のポイントについて講師の方に講義・演習していただくことになっています。普段おひとりで頑張られている先生方が多いかと思いますので、「これはどうすればよいのだろう」と聞くに聞けなかったことがあるのではないかでしょうか。他校の先生方と情報交換をする良い機会でもありますし、何かひとつでもヒントを持ち帰っていただきたいと思っておりますので、ご都合のつく先生方はぜひご参加ください。先日のメールが届いていない先生がおりましたら、お声がけください。よろしくお願ひいたします。

続いて、午後に行われました分科会についてです。今回は、家庭科技術検定の被服と保育について、講義・演

習をしていただきました。受験される学校さんが少しずつ少なくなっているのが現状ですけれども、今まで検定を実施したことのない先生方、本日参加してみていかがだったでしょうか。学習指導要領では、専門教科「家庭」において、家庭科技術検定の活用が明記されています。生きて働く「知識・技能」の習得という学習指導要領の趣旨や、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と技能を確実に身に付けるという共通教科「家庭」の目標のもと、実践的・体験的な学習活動の工夫のひとつとして活用していただければと思います。

被服分野につきましては、「家庭基礎」には被服製作が内容には含まれておりませんけれども、調査官に確認したところ、「やってはいけないわけではない」とのことでした。ただし、学習指導要領のどこの部分について扱おうとしているのか、何の力を身に付けたいのか、どこで評価するのか、そういうことをしっかりと考えて実践する必要がある。とおっしゃっていました。家庭科技術検定も学ぶ手段のひとつであると思います。目的をもって上手に活用していただければと思います。

最後になりますが、部会長の木村校長先生をはじめ事務局の百石高校の先生方、準備に関わった担当校の先生方、発表を引き受けてくださいました先生方、そしてご参加いただいた先生方に、充実した研究の機会を頂けましたことに感謝申し上げます。

来年度、またお会いできることを心より願い、講評とお礼といたします。

## 部 会 の 動 き

自 令和 7年4月  
至 令和 8年3月

6月10日(火) 県高教研家庭部会第1回役員会 於 青森県総合学校教育センター(青森市)

- 1 令和6年度高教研家庭部会事業報告
- 2 令和6年度高教研家庭部会会計監査報告
- 3 令和6年度高教研家庭部会一般会計・特別会計決算報告
- 4 協議事項
  - ・令和7年度高教研家庭部会役員改選案
  - ・令和7年度高教研家庭部会事業計画案
  - ・令和7年度高教研家庭部会一般会計・特別会計予算案
  - ・令和7年度高教研家庭部会研究発表大会担当者輪番表案
  - ・令和7年度高教研家庭部会研究発表大会発表者輪番表案
  - ・令和7年度高教研家庭部会研究発表大会要項案
- 5 その他

県外研修補助費について

令和7年度県高教研家庭部会研究発表大会第3回担当者会議 於 同上

8月19日(火) 令和7年度県高教研家庭部会研究発表大会第4回担当者会議

於 青森県総合社会教育センター(青森市)

8月20日(水) 高教研家庭部会総会並びに研究発表大会 於 青森県総合社会教育センター(青森市)

- 1 総会
- 2 実践発表

「ウェルビーイングの向上を目指した授業作り」

青森県立青森南高等学校 教諭 岩崎 久美

「定時制における多様な生徒に対応する家庭科の授業実践」

青森県立北斗高等学校 教諭 木下 和子

- 3 分科会

1講義・演習 「被服製作技術検定3級(旧4級)を家庭基礎で活用する方法」

～評価・その他、被服の疑問にお答えします～

青森県立柏木農業高等学校 教諭 山内 最子

2講義・演習 「保育技術検定3級(旧4級)を家庭基礎で活用する方法」

八戸学院光星高等学校 教諭 野坂 華子

11月予定 令和8年度教育研究大会第1回担当者会議

2月予定 令和8年度県高教研家庭部会研究発表大会第2回担当者会議

県高教研家庭部会第2回役員会

3月予定 監査

## 研究発表大会 研究テーマ一覧

紀要 (集)	年度	研究テーマ	会場	会員数	大会参加者数	大会発表者数
46	13	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	県総合社会教育センター	153	108	3
47	14	○新学習指導要領実施に向けた指導の工夫について	津軽伝承工芸館	160	118	3
48	15	○新教育課程における指導のあり方	古牧温泉渋沢公園	141	109	3
49	16	○新教育課程における指導のあり方	アピオあおもり 県民福祉プラザ	135	102	3
50	17	○新教育課程における指導のあり方	弘前パークホテル	128	107	3
51	18	○家庭科教育における指導と評価のあり方	サン・ロイヤルとわだ	129	92	3
52	19	○家庭科教育における指導と評価のあり方	アピオあおもり	119	94	3
53	20	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —家庭クラブ活動の活性化を目指して—	弘前パークホテル	115	93	3
54	21	※総会のみ	県総合社会教育センター	115	57	0
55	22	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —実践活動の活性化を目指して—	県総合社会教育センター	116	83	3
56	23	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —実践活動の活性化を目指して—	鰺ヶ沢温泉ホテル グランメール山海荘	115	74	3
57	24	○家庭科教育を通して生きる力の育成を考える —実践活動の活性化を目指して—	サン・ロイヤル とわだ	115	72	3
58	25	※総会のみ	ベストウェスタンホテル シティ弘前	117	64	0
59	26	○新学習指導要領における指導のあり方	ホテルサンルート 五所川原	113	83	2
60	27	○新学習指導要領における指導のあり方	ホテルグランヒルつたや 三沢市	117	88	2
61	28	*総会のみ（東北ブロック家庭クラブ研究発表大会のため）	県総合学校教育センター	118	64	0
62	29	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	アピオあおもり	113	69	2
63	30	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	アピオあおもり	107	76	2
64	R1	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して	八戸プラザホテル	102	78	2
65	R2	○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して *実践発表：紙上発表	—	107	—	(2)
66	R3	○家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践 *実践発表：紙上発表 研修：東北ブロック家庭クラブ研究発表大会	研修：青森中央高校 zoom開催	102		(2)
67	R4	○家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践 *実践発表：紙上発表 研修：①全国高等学校長協会家庭部会東北地区連絡協議会講演 ②第32回全国産業教育フェア青森大会	研修①弘前パークホテル 研修②新青森県総合運動公園マエダアリーナ他	98		(2)
68	R5	家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践	県総合社会教育センター	91	67	2
69	R6	家庭科における見方・考え方を働かせた授業実践	県総合社会教育センター	90	63	2
70	R7	問題解決的な学習を意識した指導と評価の計画の作成と 実践	県総合社会教育センター	91	56	2

